

## 京都の米軍基地(114): 包囲された穴文殊

経ヶ岬の自衛隊基地と米軍基地が相競うように大拡張、穴文殊をほぼ完全に包囲してしまった。

穴文殊は、正式には清涼山九品寺。数百年前に創建され、文殊菩薩をご本尊としている。智慧の仏様・文殊菩薩に、清らかな浄土へと導かれていくことを願う大切な祈りの場。

この九品寺は、日本海沿いの断崖の上に建立された。背後は、西方浄土に向かって開かれた日本海。陸地側の周囲は、長らく田畑や草地だけだったと思われる。清らかな浄土を願うにふさわしい、静かで美しい平和なお寺。

その九品寺の側に、太平洋戦争開戦後、帝国海軍が軍事施設をつくり、戦後は進駐軍や航空自衛隊がそこを継承利用したが、それでも施設はまだ小規模であり、お寺は清涼で平和な環境をなんとか維持できていた。

ところが、九品寺のこの清涼と平和は、米軍Xバンドレーダー基地建設と、それに便乗した空自基地大拡張により、根こそぎ奪い去られてしまった。いまや九品寺は、細長い参道を除き、周囲を巨大な軍事基地に囲まれてしまっている。向かって左側が日本軍基地、右側が米軍基地。警備要員がすぐそばを武器を構え四六時中巡回し、軍用機器の大きな運転音が不気味に鳴り響く。

智慧と清涼と平和の祈りの場を、軍隊が包囲する——末世の現前といわざるをえないであろう。



■空自基地[左]・穴文殊[中央]・米軍基地[右](Google 2019)



■穴文殊本堂／同正面



■2013 年の穴文殊左側(Google 2013/09)



■2013 年の穴文殊右側(Google 2013/09)



■穴文殊参道入口左側の空自レーダー／同右側の建設中米軍ビル





■畑防獣柵と日米軍事基地／棚田と日米軍事基地

谷川昌幸(C)

2019/05/29 at 16:13

カテゴリー: [軍事](#), [農業](#), [平和](#)

Tagged with [米軍基地](#), [経が岬](#), [Xバンドレーダー](#), [京丹後](#)

## 晩春の山村:丹後半島最深部

翌4月22日も快晴の好天。せっかくなので丹後半島の、これまで訪れたことのない最深部に行ってきた。

丹後半島は、この数十年で道路網が拡充されるまでは、文字通り秘境であった。海沿いは急峻な断崖絶壁が多く、道路はあっても狭く曲がりくねった難所が至る所にあった。半島の内陸側は太鼓山(683m)など数百メートルの山々が連なり、冬には数メートルの雪が積もる日本有数の豪雪地帯。丹後半島が、日本三大秘境の一つと呼ばれてきたのも、もったもである。

その丹後半島も、道路整備で見違えるほど便利になった。特に海沿いは「丹後松島」などとも称賛されているように、たいへん美しく、いまでは多くの観光客が訪れる観光名所になっている。私も何回か行ったことがある。

これに対し、丹後半島の内陸部分は、道路こそよくなったものの、これといった名所はなく、訪れる人も少ない。私自身、これまで一度も行ったことはなかった。そこで今回、どのようなところか見に行ってきた。

天橋立・宮津湾側から山に向かって登っていくと、峠頂上付近に小さな集落「上世屋」があった。大江山中腹ほどではないが桜がまだ残り、野の花や新緑と相まって絵のように美しい。地上の楽園！

車を降り、村の中に入ってみると、空き家や廃屋が目についた。急斜面のため田畑が少なく、冬の豪雪など気候も厳しいからであろう。バスは火・水・金にそれぞれ2便のみ。

観光レジャー施設が、おそらく行政主導で、いくつか集落近辺につくられているが、いかにもとってつけた感じで、ほとんど使用されているようには見えなかった。このようなところであれば、安直なミニ・レジャー施設よりも、美しい伝統的家屋の修復保存を進めた方が観光開発には有効と思うのだが、いかがだろうか。

この小集落からさらに上にのぼり、尾根筋に出て、反対側の谷に少し降りると、そこに、さらに小さな集落「木子」があった。ここでも空き家や廃屋が目につく。周囲はほとんど自然林で、新緑が鮮やかだ。秋の紅葉は、さぞや見事であろう。

ここには、古民家のほかには、おしゃれなログハウスのペンションがあるだけ。あまりに小さな集落だからか、ミニ・レジャー施設のようなものは見当たらない。周囲はあふれるばかりの自然。秋には再訪してみたいと思っている。



■丹後半島(Yahoo 地図)／上世屋バス停



■上世屋から望む宮津湾／世屋高原より望む伊根湾



■上世屋／同左



■上世屋／同左



■防獣鉄柵(上世屋)



■木子／同左



2019/05/27 at 15:17

カテゴリー: [社会](#), [自然](#), [農業](#), [文化](#), [旅行](#)

Tagged with [過疎](#), [丹後半島](#)

## 晩春の山村:大江山中腹

丹後の村に帰る途中、絶好の好天に誘われ、大江山(832m)越えの、これまで通ったことのない別の谷沿いの山道を車で登ってみた。

すでに4月21日、下界では桜はほぼ終わり、緑が濃くなり始めていた。ところが、大江山の谷へ西から少し入ると、そこはまだ春たけなわ、桜や野辺の花々が一面に咲き乱れ、まるで別天地！

大江山は、信州の山々のように高くも峻険でもないが、以前は曲がりくねった狭い山道しかなく、峠越えは至難の業だった。それでも、人々は沢沿いに山頂近くまで開墾し、平和に暮らしていた。

その大江山の生活インフラも、この数十年で見覚ましく改善された。特に目立つのが道路。いつも利用する国道176号線は、拡幅・直線化され、長いトンネルが開通し、谷をまたぐ立派な高架橋もかけられた。冬には、融雪・凍結防止の散水装置さえ作動する。建設費、維持費はいかほどかと心配しつつも、この高速道路並みの無料国道を便利に利用させていただいている。

今回入った別の谷の地方道は、この176号線とは比較にならないが、それでも拡幅され、車の通行には何の不便もなかった。

日本の道路は、この谷沿いだけでなく、どこでも、いまやたいてい舗装されている。こんな細い田んぼ道でも、こんな人里離れた山奥の小道でさえ、とビックリするほど舗装されつくしている。

道路だけではない。山腹の田畑も耕地整理され、格段に耕作しやすくなっている。大型農機を入れ、効率的に農作業ができる。

しかし、それにもかかわらず、この地方でも空家や廃屋が目につく。道路や農地のインフラ整備だけでは、過疎化を押しとどめることは出来ないようだ。いったい、どうすればよいのだろうか？



■ 標識と白い花／野の花



■ 古民家と桜／廃屋と新緑の山



■ 耕地整理された田／防獣フェンスで囲われた畑と桜



■ 防獣フェンスと古民家／古民家と新緑の山





■花桃と舗装道路(上方 176 号線)

(注)田畑や住宅の庭などには、猪、鹿、猿、熊などの侵入を防ぐため、かなり頑丈な柵が張り巡らされている。費用がかさむが、それでも侵入は防止しきれない。

谷川昌幸(C)

2019/05/25 at 11:33

カテゴリー: [社会](#), [経済](#), [自然](#), [農業](#), [旅行](#)

Tagged with [過疎](#), [道路](#), [大江山](#)

## 老老介護(16):永遠の平和へ, 自然に

100歳近くの母の介護をしていると、人間も、自然な形であれば、他の動植物と同じように生命力が徐々に衰え、器官があちこちで機能停止していき、最終的な死へと向かっていくのだなあ、と日々実感させられる。老衰による死は、他の動植物の死と同様、自然にして平和なものであるにちがいない。

たとえば樹木は、小枝が枯れ始め、大枝も一本また一本と枯れ、やがて幹が枯れ死んでいく。あるいは猫は、最近の過保護ペット化し自然＝本性＝本能を失った猫でなければ、視力・聴力や運動能力が次々と衰え、エサを食べなくなり、やがて死期を本能的に悟ると、家人の前から立ち去り、不幸にして他の動物に捕食されさえしなければ、そこで立木が枯れるのと同じように自然に死んでいく。かつての農家のネズミ対策用飼猫はたいていそうであった。自然で平和で安らかな死！

母は、認知症になったため、老化・衰弱が加速しているようだ。認知症により神経回路があちこちで故障し始めたためか、言動の総合的な抑制均衡がとれなくなり、いわゆる「常識」を失い、「異常な言動」の頻度が増し、程度も激しくなっていた。精巧な機械の無数の歯車のうちのいくつかが壊れたり外れたりし始めたため、それらと連動している他の歯車が急停止や急回転を始め、制御できなくなったようなものだ。

たとえば食欲。数年前、記憶部分に加え満腹感の部分の神経回路が故障したためか、食欲が異常に昂進、むやみやたらと食べ始めた。当然、下痢をする。が、それでも食べる。しかたないので、ごはんやおやつ(菓子、果物など)を隠すと、捜し回り、冷蔵庫を縛っている鎖でさえ強引に切断しようとする。あ

るいは、玄関の錠を壊し、外に出て、近くにあると思い込んでいる(記憶の部分的喪失と混乱)「うどん屋」に行き、うどんを食べようとする。摂食行動を制御する満腹感回路や記憶回路が故障したため、食欲の歯車が空転を始め、回転数を無限に上げていく。(参照:[老老介護\(15\):過食から寡食へ](#))

あるいはまた、椅子を廊下に出し放置。以前は、掃除のとき椅子を出し入れしていた。ところが、掃除と椅子の出し入れとを関連付ける回路がどこかで切れ、椅子を廊下に出すという歯車(行為)だけが空転するようになった。椅子を誰かが部屋に戻すと、その都度、また廊下に出す。戻しては出し、戻しては出し、数分おきといったことさえあった。

このような認知症による不可解な「異常行動」が、他にもあちこちで見られるようになり、程度も加速度的に激しくなっていた。

ところが、加速度的に空転速度を上げた歯車がいずれ擦り切れたり焼き付いたりして回転を止めるのと同様に、認知症による「異常行動」も許容範囲を超えると、終息していく。

最も劇的だったのが、食欲。無際限に食べようとする典型的な認知症過食だったのに、食欲回路が擦り切れたのか、一転して食事への関心が急低下した。ご飯を出しても、おやつを出しても、なかなか食べようとはしない。食べても、量は急減、いまでは以前の三分の一、あるいはそれ以下。これでも、あれこれ食べるよう工夫してのこと。もし以前の通りなら、ほとんど食べないに違いない。これは、食欲の存在を大前提とする疾病としての摂食障害ないし拒食症ではない。食欲本能そのものが燃え尽き、無くなり始めているのだ。(参照:[老老介護\(15\):過食から寡食へ](#))

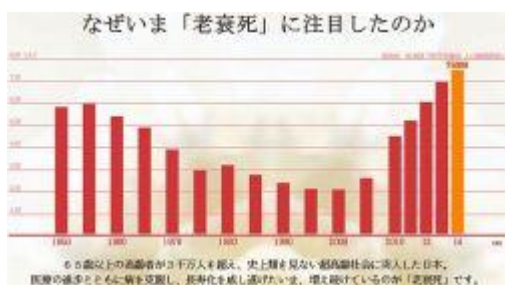
他の認知症による「異常行動」も、食欲ほど劇的ではないが、頻度、程度とも減少してきた。玄関錠を壊そうとしたり廊下椅子を出したりはまだするが、数回止めさせれば、以前のように際限なく繰り返したりはしない。何であれ、何かをする意欲そのものが失われつつある。はっきりそれとわかる老衰が始まったと覚悟せざるをえない。

母のこの老衰は、認知症のため加速されてはいるが、自然なものであり、痛みや苦しみは特にはない。まだ会話もできるし、自分で歩き、食べ、トイレに行き、テレビを見る(ながめる)こともできる。が、それにもかかわらず食べなくなり、何事であれ物事への関心そのものが加速度的に失われ始めた。心身はあきらかに終末へと向かいつつある。

母の老衰は、このようにごく自然なものなので、食事についても、好物中心の食べやすい料理を作り、食べるように話しかけはするが、それでも食べなければ、無理強いせず、そのままにしている。それが自然だから。

人も自然から生まれ自然へと返る。食べなくなった猫が、平和の裡に自然に返っていくのと同じように。永遠の平和に向かって、自然に！ Zum ewigen Frieden!

▼「老衰死——穏やかな最期を迎えるには」([NHK スペシャル 2015/9/20](#))



谷川昌幸(C)

2019/05/17 at 18:11

カテゴリー: [社会](#), [健康](#), [宗教](#)

Tagged with [看取り](#), [老衰死](#), [自然死](#), [認知症](#), [延命](#), [介護](#)

## ゴビンダ医師のハンスト闘争(39)

### 10 参考資料

- (1)マンジート・ミシュラ「希望と恐怖の物語」
- (2)グファディ「狂気の権威主義的な医師」
- (3)D・カイナー「無為無策の5か月」リパブリカ, 2018年8月7日

デビッド・カイナーは極西部出身、トリブバン大学卒。[Revival Ministry Nepal](#) (RMN)代表。人身売買防止、貧困救済等の社会活動に尽力。「リパブリカ」、「カトマンズ・ポスト」等への寄稿多数。この「無為無策の5か月」では、オリ政府の強権化・利権化を阻止し人民の利益を実現するには、市民社会自身が立ち上がるべきだと訴えている。

\* David Kainee, "Five months of inaction," Republica, August 7, 2018

KP・シャルマ・オリ政府は、発足後5か月を経過した。その業績は、どう評価されるべきか？ 昨年の地方、州、連邦の3選挙において、人民は共産党連合(現在は統合されネパール共産党)に未曾有の大勝利を与え、これによりオリは、近年のネパールにおいて最強の政府を率いることになった。首相は、「ネパール人の幸福、ネパールの繁栄」を約束したのであり、人民は、その約束の実現に向けての確かな前進を期待した。

ところが、オリ政府は次々と問題を引き起こした。政府は権威主義だという批判もあれば、議会で三分の二を握ったため傲慢になっているという声もある。[.....]



先月[2018年7月]、政府は、医学教育改革の旗手ゴビンダ・KC 医師に対し、この上ない傲慢さと無神経さを示した。政府は、ケダル・バクタ・マテマ委員会勧告無視の国民保健教育法案[医学教育法案]を通そうとした。[これを阻止するための]サティアグラハを行うためKC 医師がジウムラに向かうと、ジウムラ郡当局は、連邦政府の要請を受け、抗議行動禁止場所を指定した。そのため、KC 医師は、地域病院の暗い部屋で抗議行動を始めざるをえなかった。

オリは、KC 医師の品位を汚すようなことを言った。人民の守護者として働くのではなく、自国の高貴な魂と敵対する権力者としての立場を、オリは自ら選び取った。KC 医師が意識を失ったときですら、政府はそれを無視した。市民社会やメディアからの圧力が大きくなり始めてようやく、政府は交渉に転じ、結局は彼の諸要求を受け入れることに同意した。このときまでに、以前は愛国的指導者と見られていたオリの評価は、大きく損なわれてしまった。いまや彼は、コネ資本家どもの守護者と見られるようになった。

[オリ政府は公共交通や開発基金など他の諸課題についても、当初は改革を掲げたものの、実際には実行しなかった。……]

[[ウジャン・シュレスタ殺害事件](#)]で有罪判決を受けたバル・クリシュナ・ドウンゲルに対する大統領恩赦についても、政府は、多くの人々が指摘してきたように、マオイスト幹部と結託して、これを承認した。司法は政治化されてしまった。首相をはじめ大臣たちは、言葉でも行動においても、傲慢であり不寛容である。2006年人民蜂起において中心的な役割を果たしたわれわれ市民社会は、身内第一の諸政党とは距離を取り、自らを復活させる必要がある。[……]



■RMN フェイスブック



■Jeremy Snell, “[David of Nepal](#),” (Video)

谷川昌幸(C)

2019/05/15 at 18:44

カテゴリー: [健康](#), [宗教](#), [政治](#), [教育](#), [民主主義](#)

Tagged with [キリスト教](#), [ゴビンダ・KC](#), [ハリスト](#), [David Kainee](#), [医学教育](#), [市民社会](#)

## ゴビンダ医師のハント闘争(38)

### 10 参考資料

(1)マンジート・ミシュラ「希望と恐怖の物語」

(2)グファディ「狂気の権威主義的な医師」カトマンズ・ポスト, 2018年7月7日

-----  
鋭い風刺に満ちた興味深い論評。グファディはペンネーム。自称「偏屈老人」。カトマンズ・ポストに時評等多数寄稿。著者ブログ <http://guffadi.blogspot.com/>

Guffadi, "The crazy authoritarian doctor," Kathmandu Post, Jul 7, 2018

<http://guffadi.blogspot.com/2018/07/the-crazy-authoritarian-doctor.html>

-----  
われわれは皆、KC 医師にはうんざりしていると思う。われらのこの偉大な国において、保健医療制度や医学教育の質について、KC 医師だけがなぜ心配しなければならないのか？ 彼を除けば、われわれはすべて、途方もない高額料金の医療で十分満足しているし、またバヤパリ[商売人]どもが医大を開設し、低水準の教育を行い無能な医者を送り出すことにより巨万の富を手にしていても、まったく気にもしない。要するに、医大投資家は、よい医者育成よりも儲けの方を優先させているのだ！

われわれは、世界最高水準の公立病院をいくつか持っている。そこには高価な医療機器があるが、医者たちはそれを使わず、自分のクリニックを患者に紹介しそこで治療するので、病院の医療機器は無用の長物と化している。われわれはまた、世界最高水準の私立病院もいくつか持っている。そこでは、患者は、必要もない検査のため毎日何千ルピーも請求され、治療費総額は何十万ルピーにもなり、患者家族はその支払いのため土地を売るか、さもなければ完済まで患者を病院に人質として留め置かれることになる。

そう、これこそが、社会主義者[ कांग्रेस党 ]と共産主義者[ 共産党 ]が次々と政権を握り、あらゆる分野において一般庶民よりもバヤパリ[ 商売人 ]を優遇してきた国なのだ。いったいいつになったら、人民に小便をひっかけるのではなく、本当に人民のことを考えてくれる政府を、われわれはもつことになるのだろうか？ 腐敗した指導者[ ネタ ]たちがインドやタイやシンガポール、いやアメリカ[ Amrika ]にさえ治療を受けに行くのではなく、国内にとどまり公立病院で治療を受ける日は、いつになったら来るのであろうか？

わが国の前大統領[ RB・ヤダブ ]の前立腺ガン治療には、アメリカから医者をお招きねばならない(引用者注)。わが国の政治家たちはまた、われわれ自身の国の医師よりインドの医師の方が優秀とも信じている。わが国の首領[ チョラ・ネタ ]たちは、この国に世界水準の公立病院を開設するためではなく、外国での治療のため何百万ルピーも費やす。にもかかわらず、われわれ人民は不平も言わず、街頭

に出て抗議することもせず、腐敗した首領どもに過ちの責任を取らせもしない。われわれは、われらが小マハラジャたちが武装警官のお供を引き連れ豪華高級車でカトマズを動き回るのを見て、せいぜい、恨みがましく不平を漏らすだけだ。

[引用者注:ラム・バラフ氏は前大統領(在職 2008 年 7 月~2015 年 10 月)。2013 年、健康診断のため来日。2016 年 8 月、前立腺ガン治療のため政府が 600 万ルピー支給を決定、翌 9 月にアメリカで手術。]

しかし、お医者様[Dr Saheb]はちがう。金も、権力も、特待特権も求めはしない。この国に良い医者が生まれることを願うのみ。貧しい人々でもよい保健医療が受けられること、それがお医者様の願いだ。彼は、この国にとって最善のものを医療の分野で求めているのだ。が、われらが政治屋たちは、彼が好きではない。というのも、彼らの多くが私立病院に投資しているか、あるいは医科大学を開設しお金をもっと儲けようと考えているからだ。

われらが偉大な共産主義者たちは、お医者様を狂気、権威主義、全身痛のようなものとみている。たしかに、体制に一人で立ち向かう改革者は狂気だ。いま、市民社会の人々は、いったいどこにいるのだろうか？ いわゆるフェイスブック活動家は、どこにいるのか？ われわれが求めるのは、財布からいつも盗み取っている常習スリたちではなく、この国を導いてくれるお医者様、そう、まさにそのような人なのだ。

要するに、わが国では、いわゆる共産主義者のほとんどが大学や病院、いや NGO にすら投資しているということだ。お医者様は、この国の医学マフィアと闘っている。政府には、商売人たちが私立医大でしこたまゼニ儲けするのを許すのではなく、各州に医大を開設することが、なぜできないのか？

この人には、体制と闘うのではなく、何の心配もなく自分の仕事に邁進していただくべきだと思う。そうでしょう、お医者様、ハンストを幾度も繰り返すことにお疲れではないですか？ 狂気のお医者様はジューラに行き、いまはカルナリ健康科学アカデミー[KAHS]の救急室に收容されている。われらが偉大なオリ政府は、この国の医科大学の質は気にしていない。政府の面々は、身近のお気に入りの人々が医者を目指す医学生から大金をとりお金儲けできるようにしたいだけなのだ。

われらが無能政府は、KC 医師の死を願っている。そう、これが真実であり、もし KC 医師が天国に行けば、われらがミニ・マハラジャたちに対し抗議し、ハンストを行い、闘う者は一人もいなくなる！ KC 医師も死は恐れていない。カルナリで死ぬ覚悟はできている、と彼は言っているのだ！

お医者様は、要求が入れられるまでジューラに留まると誓った。この狂気の医者は、この国のために最善の保健医療と医学教育を求めているにすぎない。われわれは、なぜ立ち上がり彼を支持できないのか？ この孤独の改革者が医学マフィアとたった一人で闘っているのに、われわれはほとんどそれを気にも留めていない。恥ずかしくないのか！

われらが無能政府は、KC 医師を投獄すべきだ。この人物は既成政治体制の疫病神だ。彼は、医学分野のあぶく銭をねらっている商売人や政治家たちにとって、脅威だ。この男は、青年たちの悪きお手



本だ。われらが首相は大きなことを考えている。われわれは、カトマンズで列車にちよいと乗ればケルン[吉隆鎮]に行けるようになるだろう。コルカタへは、カトマンズから船で行く。われわれは、われらが商売人や首領たちには国内にたくさん医大をつくることを認め、これにより授業料を払える者が医者になり、ここから首領たちも利益をえられるようにしなければならないのだ。

神よ、オリに祝福を。神よ、われらが偉大な同志たちに祝福を。劣悪医大の国となるのを阻止しようとする KC 医師を、打倒せよ！ この世の最後の日に、お医者様は、その医学分野での業績と、医学分野改革のためハンストを行ったことをもって思い起こされるだろう。オリとその廷臣たちは、何をもって思い起こされるのか？ 彼らには、思い起こされるべきものなど何もない。KC 医師は明日死ぬかもしれないが、腐敗した体制と力の限り闘ったと考え、幸せに死んでいこう。一人でも、体制を揺るがすには十分だ。ましてや、われわれ何百万人もが街頭に出て、それぞれ自らハンストを始めたら、どうなるか。そうなのだ、もしわれわれが協力して腐敗した首領どもと闘うなら、われらの腐敗した体制を破壊することは可能なのだ。政党をつくるまでもない。勇気さえあれば！



■ヤダブ前大統領手術後ワシントンで会見(Republica, 31 Oct 2016)

谷川昌幸(C)

2019/05/14 at 11:01

カテゴリー: [社会](#), [健康](#), [政治](#), [教育](#), [民主主義](#)

Tagged with [ゴビンダ・KC](#), [サティアグラハ](#), [ハンスト](#), [医療](#), [医学教育](#)

## ゴビンダ医師のハンスト闘争(37)

### 10 参考資料

(1)マンジート・ミシュラ「希望と恐怖の物語」リパブリカ, 2018年8月1日

ゴビンダ医師のハンスト闘争を、ガンディーやネルソン・マンデラのサティアグラハを継承するものとして高く評価。著者はラジビラジ在住の講師。リパブリカ紙にコラム等執筆。

Manjeet Mishra, "Tale of hope and fear," Republica, August 1, 2018

---

KC 医師が力づくで拉致され, [KAHS] 病院が破壊された。これは, サティアグラハ[真理追求, 非暴力抵抗]に対する攻撃に他ならない。

7月18日は, ネルソン・マンデラの生誕記念日。この数年と同様, 今年も関心はあまり高くはなかった。トランプ, プーチン, エルドアン[トルコ大統領]のような力を振りかざす権力者たちが見出しを独占するような時代においては, マティバ[マンデラ愛称]のような平和と和解への訴えは, 無力・無意味で時代遅れのように見える。世界は, もっと先へと進んでしまったように見える。

彼の訴え方は現在では現実離れしているように見えるかもしれないが, 実際にはそれは間違いなくわれわれを勇気づけてくれるのであり, いまこそ, それは思い起こされてしかるべきである。……

マティバは親切で度量が大きく人々の中に入り込む力を持っており, これこそが彼の指導力の特徴であった。むろん失敗——主に経済に関して——もあったが, それにもかかわらず彼が彼の国と世界にとって大きな希望となっていることは, 紛れもない事実である。

そのマティバに, たとえ形だけであっても, 敬意を表すべき時に, 断食をしていたゴビンダ医師が, ジュムラの病院から「拉致」された。これ以上あからさまな皮肉な仕打ちはあるまい。サティアグラハ[真理追求者・非暴力抵抗者]の強制的拉致と病院の破壊が, 非暴力を象徴する人の誕生日に行われる——これはサティアグラハそのものに対する攻撃と見ざるをえない。……

私が初めて KC 医師を遠くから目にしたのは, 彼が 2016 年洪水のとき, 私の故郷であるサプタリ郡テイヤティ村の医療キャンプに来た時であった。村は洪水で破壊されてしまっていたが, 彼は冷静沈着そのものだった。彼は余計なことをせず仕事そのものに取り組んでいた。その姿を見て私は感激し, すぐ彼を尊敬するようになった。

おそらく彼のそうした資質が, その無私の態度と相まって, 彼をして[サティアグラハの]象徴としたのだろう。ハンストをジュムラで始めることにしたのも, 見事な決定であった。政府は彼を強制的に「拉致」せざるをえなくなり, それが市民社会やメディアに衝撃を与え, 彼らの大きな共感を呼び起こすことになったのだ。

これこそサティアグラハの力である。無私の人物が改革改善を深く確信し, 断固とした毅然たる態度をとるとき, 権力は暴力的手段に頼らざるをえなくなる。今回の稀有の勝利は, KC 医師にして初めて獲得しえたものだ。彼の闘いは, 一言でいえば, まさしくマハトマ・ガンディーのいったことに他ならない——「初め彼らはあなたを無視する, 次に彼らはあなたのことをあざ笑う, そして次に彼らはあなたを攻撃する, そしてあなたが勝つ」。

manjeet mishra @manjeetmishra82 · 2018年8月2日  
My Column  
myrepublika.nagariknetwork.com/news/tale-of-h...



■M・ミシュラ「ツイッター」(2018年8月2日)

谷川昌幸(C)

2019/05/13 at 10:07

カテゴリー: [健康](#), [政治](#), [教育](#), [民主主義](#)

Tagged with [ガンディー](#), [ゴビンダ・KC](#), [サティアグラハ](#), [ハンスト](#), [マンデラ](#), [非暴力](#), [医学教育](#)

## ゴビンダ医師のハンスト闘争(36)

### 9. 合意成立後の動き

「9項目合意」が成立しKC医師がハンストを終了した後、政府は合意文書を教育省に回す一方、与党共産党議員にも合意について説明した。そして、政府提出の「医学教育法案」は、議会において、「9項目合意」に沿って修正するとした>(\*92)

しかし、いくら合意し文書に署名しても、その合意が実行されず反故にされることは、少なくない。合意反故は、ネパール政治文化の宿痾といってもよい。「医学教育法案」の場合も、利害が大きく絡むだけに、合意直後から、その約束を反故にさせようとする動きが出始めた。

たとえば、「医学問題調査委員会(MEPC)報告」(2月4日提出)が勧告した有責職員43人に対する解雇等の厳罰処分については、さっそくトリブバン大学事務局が7月28日、反対声明を出した。それによると、MEPC報告は「適正手続き」で作成されておらず、「偏向」しており無効であって、それによる職員処分はできないという(\*93)。これに対し、7月31日付リパブリカは、「トリブバン大学汚職職員を処罰せよ」と題する社説を掲げ、こう批判した。

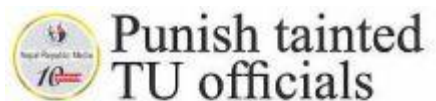
「KP・オリ首相はトリブバン大学総長なのだから、これら有責とされた人々の処罰回避を許すべきではない。医大認可のための彼らの共謀は、さらに追及されなければならない。オリ首相には、彼自身の政府がKC医師との合意に署名したのだから、彼らに対し措置をとらせる義務がある。」(\*94)

こうしたなか、オリ政府は7月31日、「9項目合意」に従い22か所を修正した「医学教育法案修正案」を議会に提出した(\*95,96)。その限りで、オリ首相はKC医師との約束を守ったとはいえる。しかしな



がら、この修正案が実際に可決成立するかどうか、成立させる意思が本当にあるのかどうかは、この時点では、まだいずれともいえない。署名しようが、誰が立ち会おうが、約束の反故はネパール政治の常套手段なのだから……。

▼リパブリカ社説(2018年7月31日, \*94)



Five days after the government signed nine-point agreement with Dr Govinda KC, who was on 27th day of his 15th hunger strike demanding crucial reforms in health and medical education, a key point of the nine-point agreement faces the risk of not being implemented. A point of the nine-point deal is related to taking action within two months against 43 officials held guilty by Medical Education Probe Commission (MEPC), which include officials of Tribhuvan University, Kathmandu University and Nepal Medical Council (NMC) among others. TU has visibly stood against action against

\*92 "Oli govt bows to Dr KC's demands," Republica, July 27, 2018

\*93 Bishnu Prasad Aryal, "TU dismisses MEPC report, rejects action," Republica, July 30, 2018

\*94 "Editorial: Punish tainted TU officials," Republica, July 31, 2018

\*95 "Bill amendments filed in line with Dr KC's concerns," Kathmandu Post, Aug 1, 2018

\*96 "Bill amendments filed in line with Dr KC's concerns," Kathmandu Post, Aug 1, 2018

谷川昌幸(C)

2019/05/12 at 08:54

カテゴリー: [行政](#), [健康](#), [政治](#), [教育](#), [民主主義](#)

Tagged with [ゴビンダ・KC](#), [トリブバン大学](#), [ハnst](#), [医学教育](#), [汚職](#)

## ゴビンダ医師のハnst闘争(35)

### 8. 「9項目合意」の評価

(1)リパブリカ「KC 医師との合意をその文書と精神に沿い実行せよ」(2018年7月29日)

(2)リパブリカ「KC 医師との合意を実行せよ」(2018年8月13日)

「オリ首相とゴビンダ・KC 医師が土曜日[8月11日], 会談をもち, 2週間前成立した9項目合意の実施につき話し合った。オリ首相は, 合意の効果的実施のため監査委員会を設置することを提案した。首相は, 以前は, KC 医師のハnstや医学教育改革要求に反対と見られていたので, これは歓迎すべき一歩前進である。首相は前向き姿勢を見せており, われわれも政府が約束を守り, 合意に沿いその義務を果たすことを願っている。

オリ首相は、KC 医師に監査委員会の長となるよう打診したが、即座に彼は辞退したという。KC 医師のような人は、わが社会の道徳的権威であり、民衆の尊敬を集めている。国家はこの事実を認めるべきだ。彼は 15 回もハンストを行ったが、それは個人的な理由からではない。彼の目標は、この国の医学教育や保健サービスの改革にあった。KC 医師がいなければ、いまごろは MBBS[医学士課程]を学ぶのに1千万ルピー以上かかっていただろう。いまの学費はその半分以下だ——KC 医師の妥協なき改革努力に感謝する。KC 医師は、市民すべてに利用可能な保健医療を保障する憲法を政府が遵守することを求めている。都市部の医療機関は例外なく繁盛しているけれど、遠隔地の村々の住民の80%は、下痢や発熱といったありふれた病気で死に続けている。わが国の憲法が求めているように、「社会主義指向」国家では、自分には必要なとき病院に行くすべのない人々であっても、十分な手当てが受けられるようにされなければならないのである。

オリ首相とKC 医師との会談[8月11日]は、この国における医学教育を医学マフィアが牛耳っており、それを首相が手助けしているとして、人々が首相を糾弾しているときに行われた。この首相の会談への姿勢は、政府とKC 医師とのこれまでの合意の効率的・効果的な実行へとつながるものでなければならぬ。二人は同じことを目指しているように見えはする。すべてのネパール人が良好な保健医療を受けられること、そして医学教育を受けうる能力のある人々が医科大学学費を払うため全財産を売り払わなくてもよくすることである。二人が、人々のための効率的で信頼でき利用可能な医療サービスと、学びたい人が学べる医学教育制度をこの国に実現しようと願っているのなら、[政府側が]KC 医師とともに署名した合意諸項目が実行されない理由は、どこにもないはずだ。政府は、KC 医師が同じ理由で再び次のハンストをしなくてもよいよう保証すべきだ。さもなければ、民衆の怒りを買って、オリ政府はたちまち民衆の今ある支持すらすべて失うことになるだけだからである。KC 医師と人民は、保健医療と保健医療教育が直面している諸問題に政府が次にどのような対策をとるか、いまじっと見つめている。首相が KC 医師と会談したことで、いくらか希望が見えてきた。どうか、この希望を消さないでほしい。」

▼180日、6年、15回のハンスト(Republica, 17 Jul 2018)



\*91 "Implement agreements with Dr KC," Republica, August 13, 2018

谷川昌幸(C)

カテゴリー: [健康](#), [政治](#), [教育](#), [民主主義](#), [人権](#)

Tagged with [ゴビンダ・KC](#), [サティアグラハ](#), [ハンスト](#), [医学教育](#)

## ゴビンダ医師のハンスト闘争(34)

### 8. 「9項目合意」の評価

オリ政府と KC 医師が「9項目合意」に署名し、KC 医師がハンストを終えたことにつき、メディアの大部分は社説等で歓迎を表明した。ここでは、この件につき最も詳細に報道してきたリパブリカ紙の7月29日付と8月13日付の記事のみ、紹介する。(他のメディア報道は最後に参考資料として列挙予定。)

(1)リパブリカ「KC 医師との合意をその文書と精神に沿い実行せよ」(2018年7月29日)(\*90)

「ゴビンダ・KC 医師に何が起るのか？ 政府は彼の要求に応えるのか？ 彼の生命は救われるのか？ トリバン大学教育病院の長老整形外科医が15回目のハンガーストライキを始めた6月30日からこれまで、一般民衆はこれらのことを心配し続けてきた。KP・オリ政府は、ネパールの医学教育・保健衛生分野の抜本的改革への要求に消極的と見えるときもあれば、KC 医師の体調悪化についても同様に冷淡と見えるときもあった。カトマンズ内外で政府に対する抗議行動が始まったのは、そのためだ。そうしたなか、この木曜日[7月26日]夕方、政府と KC 側が合意に達したことを知らされ、われわれはみなホッと安堵した。KC 医師の生命は救われ、医学教育分野の改革がようやく緒に就いた。政府は、遅くなったとはいえ、高い目標を持つ重要な訴えを聞き入れたのであり、称賛されてしかるべきだ。オリ首相が自らこの交渉に深く関与し、合意に達したおかげで、KC 医師は今回のハンガーストライキを終えることが出来たし、またそればかりか、KC 医師がこれまでと同じ理由で再びハンガーストライキをする必要はもはやなくなったという新たな希望をも持つことが出来るようになった。ありがとう、首相。……

しかしながら、これまでそうであったように、政府がまたまた合意を反故にするかもしれないという疑念は、払拭できない。KC 医師と交渉したこれまでの政府はすべて、彼の要求を受け入れると約束し、合意書に署名した。が、いまの首相が率いていた2015年の政府を含め、それらいずれの政府も合意した約束を実行しなかった。KC 医師が15回目の決死のハンストに訴えざるをえなかったのは、そのためである。われわれは、オリ首相が KC 医師を欺き引き延ばしを図ることのないよう願うし、また、そうあるはずだと信じている。首相は自らの意思により、KC 医師の要求の受け入れとその実行のための合意書への署名を行わせた。これは注目すべき成果である。首相が本当に評価されるのは、合意が実行されたときであり、また老サチヤグラヒ[真理希求者]がその生命を、政府が追求し実現すべきなのにそうしない事柄のために危険にさらす必要のない状況をわれわれがつくりだすときである。わが国の政治家たちは、あまりにもしばしば KC 医師を困難な状況に追いやってきた。そのようなことが、もはや二度と起きないことを願う！」

# Oli govt bows to Dr KC's demands

Hunger strike ends on 27th day

REPUBLICA  
KUPUNAKA, 26 JUL

Dr Gostada KC has ended his hunger strike on 27th day on Thursday following a nine-point agreement with the government.

Dr KC agreed to end his hunger strike after the government agreed to fulfill all his demands including a 18-year moratorium on establishing of new medical colleges in Kaitiaki Valley, which had restricted the number of universities in the talks.

Deputy parliamentary party leader of the ruling Māori Government, Deputy Speaker Sirinirangi and Prof Sotihi Whaitiri-Mohioma jointly offered him liquid to break his hunger strike at 10:30pm Thursday.

Earlier, the talks between the government and the supporters of Dr KC had failed to make headway as the government rejected the demand as a 18-year moratorium.



Deputy Speaker Sirinirangi (left) and Dr Gostada KC at 10 Teaching Hospital on Thursday evening. Dr KC ended his hunger strike after the government agreed to fulfil all his demands.

Dr KC ended his hunger strike after the government agreed to fulfill all his demands. Talks will be provided incentives. Earlier in the day the talks could not continue after the government insisted

■ Republica, 26 Jul 2018

\*90 "Implement agreements with Dr KC, in letter and spirit," Republica, July 29, 2018

谷川昌幸(C)

2019/05/10 at 16:23

カテゴリー: [健康](#), [政治](#), [教育](#), [民主主義](#)

Tagged with [ゴビンダ・KC](#), [サティアグラハ](#), [ハンスト](#), [医学教育](#)

## ゴビンダ医師のハンスト闘争(33)

### 7. ハンスト:開始から終了まで

- (1) ジュムラでハンスト開始
- (2) 体調悪化
- (3) ゴビンダ医師支持の拡大
- (4) カトマンズへの強制移送
- (5) カトマンズでのハンスト継続
- (6) 人権団体等の KC 支持声明
- (7) メディアの報道

### (8) 「9項目合意」成立・ハンスト終了

オリ政府は、KC ハンスト支持運動の急拡大に押され、KC 側との交渉を進め合意を急がざるをえなくなった。政府側交渉団はラジ・バラル教育省事務局長(代表)ら関係各省幹部、KC 側は J・チェットリ医師、S・パンダリ医師、OP・アルヤル弁護士、AR・シン弁護士、S・パンディ NMA 代表。交渉が始まると、重要局面ではオリ首相自身を含む双方の有力者らが、当然ながら、様々な形で交渉に関与した>(\*82) カトマンズでの最初の交渉は、7月24日、教育省で始まった。この時は、カトマンズ盆地内での医大10年間新設禁止と、1大学の連携医大開設認可5校以内の2項目を中心に交渉されたが、相手側への非難攻撃に終始し進展は全く見られなかった>(\*82,83)



次の交渉は、7月26日、いよいよ切羽詰まって、場所は首相官邸、しかもオリ首相自身も出席した。街では、医師・看護師や医学生も参加したデモや集会、外来休診など、激しい抗議活動が続いている。議会では、NCの抵抗で、議事停止>(\*84)

オリ政府は追い詰められ、ついに26日夕方、KC側要求をほぼ全面的に受け入れ、これを文書化した「9項目合意」に署名した。(合意項目数は、数え方により「22項目」とされることもある。)(\*85)

この合意成立を受け、26日夜おそく、KCはハンスト終了を決め、訪れたKB・マテマやS・ネムワン元議長らから手渡されたジュースを飲んだ。こうして、27日間にも及ぶKC最長のハンストは、KC側のほぼ完勝という結果をもって終了したのである>(\*85)

### (9)「9項目合意」の概要(\*86,87,88,89)

- ・議会提出済みの「医学教育法案」は22か所修正。
- ・カトマンズ盆地内での医大新設10年間禁止。
- ・盆地内医大新設認可取得済みの場合は、新設準備資産を政府に売却するか、もしくは盆地外の優先地域で新設。盆地外新設には優遇措置。
- ・カルナリ健康科学アカデミー(KAHS)にMBBS開設のための特別委員会設置。
- ・ジャナキ医科大の運営妨害責任者処分と早急な授業再開。
- ・各州に少なくとも1医大設置。
- ・国立(公立)医大入学定員の75%は奨学金付き。
- ・病院による医大併設には、3年以上の病院運営実績が必要。
- ・マンモハン記念大学[共産党系]の国有化。
- ・医学教育問題調査委員会(MEPB)が有責とした関係者を2か月以内に処分。
- ・大学や他の政府学術機関の役員選任基準を定めるための委員会設置。

▼KC支持サティアグラハ参加アピールと勝利宣言: [KC 連帯 FB](#)(日付は日本時間)

The image shows a collage of information related to a solidarity protest for Prof. Govinda KC. At the top left is a Facebook post from 'Solidarity for Prof. Govinda KC' dated 2018年7月26日. The post text in Nepali calls for a 5-day civil disobedience starting from 9:30 AM at Jaulaxel stadium. Below this is a banner for a 'Samuhik Nagarik Satyagrah' (Civil Disobedience) against the 'Medical Mafia' (Medicine Mafia) led by Dr. Govinda Karki. The banner includes details about the location (Jaulaxel stadium) and time (90 Bजे). To the right is a poster for the 'Samuhik Nagarik Satyagrah' with the location 'Jaulaxel' and time '90 Bजे'.

Solidarity for Prof. Govinda KCさんがイベントを告知しました。

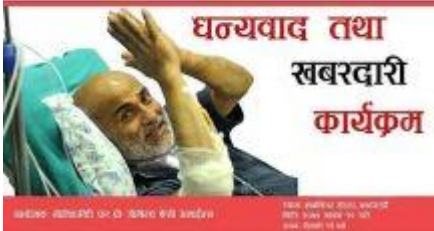
2019年7月20日

अनारक: २७ दिनको सखपह सबै पक्षको प्रयत्नमा डाक्टर गोविन्द केसीको मजहुर-सन्धीयन हुने गरी टुंगिएको छ।  
झिजे भए पनि सरकारले डाक्टर गोविन्द केसीको मजहुर-सन्धीयन गर्न देखिएको तयसललाई ताब अघिपार्न सफल भएन सन्धीयन गर्न सबैलाई धन्यवाद दिन र गरीएको समझौताको अक्षरसा पालन गर्न सरकारलाई सखबदारी गर्ने भएरि ७२ गते बनिजार १२ कडे महावीर्य मास्तरान्त्र उपसिमा भए दिनुहुन सबैलाई हार्दिक अनुरोध गर्दछौं ।

Solidarity for Prof. Govinda KC

2019年7月20日

डा. केसीले माथि र नेकाडको हातबाट ब्रुक डाक्टर अन्धन तोडे। नेकाडको सरकारी प्रभिदता र सन्धीयता कसरी कार्यान्वयन गर्ने भन्ने माथिबिस सुनए। यसअघिबिस अन्धन टुंगिएको धन्यवाद मन्त्रालय र नेकाडनीयमित दिने डा. केसीले माथिबिस खेल्नान्ने अवस्थामा थिएन। सम्बन्धितकति उनी इत्यम मुमुकुन्दा। सेर दिनेसि अघिसंस समप बन्द रहेका अरिष्ठ चनेरिज दुहाए, अरिष्ठको भयहं सेरिज गरीरको थियो- उनी यो अघिसन्धलाई सार्थिब नय दिन सखपमग पु-खउने सखैउहं दसतले ने धन्यवाद दिरेखन्।  
<https://nagariknews.nagariknetwork.com/news/53256/>



- \*82 "Talks between Dr KC and govt begins," Republica, July 24, 2018
- \*83 "Talks between govt and KC's team fail to strike deal yet again," Republica, July 25, 2018
- \*84 "National Assembly adjourned for a week after obstruction," Republica, July 26, 2018
- \*85 "Govt, Dr KC finally agree on disputed point, seal 22-point deal," Republica, July 26, 2018
- \*86 "Oli govt bows to Dr KC's demands," Republica, July 27, 2018
- \*87 "How challenging is implementing agreement with Dr KC?," Republica, July 28, 2018
- \*88 Bishnu Prasad Aryal, "Sincerity seen as key to implementing deal with Dr KC," Republica, July 28, 2018
- \*89 "Editorial: Implement agreements with Dr KC, in letter and spirit," Republica, July 29, 2018

谷川昌幸(C)

2019/05/09 at 15:06  
カテゴリー: [健康](#), [政治](#), [教育](#), [民主主義](#)  
Tagged with [ゴビन्दा・KC](#), [サティアグラハ](#), [ハリスト](#), [医療](#), [医学教育](#)

## ゴビन्ダ医師のハリスト闘争(32)

- 7. ハリスト:開始から終了まで
  - (1)ジウムラでハリスト開始
  - (2)体調悪化
  - (3)ゴビन्ダ医師支持の拡大
  - (4)カトマンズへの強制移送

(5)カトマンズでのハンスト継続

(6)人権団体等の KC 支持声明

### (7)メディアの報道

内外メディアのゴビンダ医師ハンスト関係報道はおびただしい数にのぼり、しかも、上述の KC 支持声明からもわかるように、その大半がハンスト支持の立場をとっている。ここでは、有力紙3紙の記事のみを紹介する。(他の記事については、主なものを最後に列挙し紹介する予定。)

#### ▼カトマンズ・ポスト社説「ぞっとする権力行使」(2018年7月20日)(\*79)

「国家がジウムラにおいて、抗議行動を続ける整形外科医ゴビンダ・KC 博士をカトマンズに連れ戻すため、露骨な実力行使をしたのは、まことに遺憾なことだ。民主社会ではどこでも、露骨な実力行使は、ましてや病院玄関先であればなおさらのこと、よほどのことでなければ、およそ考えられないことだ。……

政府は、KC 医師がハンストを止めるに必要な対応を政府が拒否し、これが人々の怒りを買い、政府への信頼を確実に失わせつつあることを、理解すべきだ。いまの危機は、KC 医師第 15 回ハンストの精神とマテマ委員会勧告がともに尊重されることにより解決されるべきだということを、政府は理解すべきであろう。

これは、誰であれ一人の人のエゴを満足させるためではない。それは、露骨な商業化で蝕まれているわが国医学教育の改革という大きな目的のためだ。[政府提出]現行法案は、マテマ委員会案とはかけ離れている。目下、議会は8日間の休会中なので、この間に合意を形成し、誰もが受け入れられる法案を提出すべきであろう。

KC 医師はカトマンズに連れ戻されている。彼の要求に応えるため、誠心誠意、努力すべきだ。政府は [政府提出]国家医学教育法案の議会からの撤回ということになろうとも、いまの危機を解決するため柔軟に対応すべきである。」

Nepal's National Newspaper  
— The Kathmandu Post —  
Since 1993

## EDITORIAL

### That was appalling

The way the state used force to bring  
Dr KC to Kathmandu is deplorable

#### ▼リパブリカ社説「かたくなな態度を改め、KC医師の話聞くべきだ」(2018年7月24日)(\*80)

「オリ首相とその諸大臣は、KC医師の要求に最大限の誠実さをもって応えるべきだ。」MCのプラチャ

ンダと他の幹部だけでなく、UMLの幹部の何人かも、オリ首相のかたくなな態度に批判的となりつつある。

「オリ首相は、KC医師の改革運動を、首相に近い幹部たちが巨額投資をしているマンモハン医科大学に対する攻撃と、以前にもまして見ているようだ。KC医師の要求をそのように見るのは誤りだろう。この6年間、KC医師は、どの党が政権をとってしようとも、医学教育の改革を一貫して訴えてきたからだ。」

オリ首相は、KC医師が話し合いの前提条件を取り下げるなら、話し合いに応じるとしている。もしKCを疲れさせるため、このような作戦をとっているのだとすると、それは民衆を怒らせることになるだろう。政府は、そのような疑念がこれ以上大きくなならないうちに、KCとの話し合いに応じるべきだ。すでに反政府運動は拡大し、政府の掲げる「社会主義」は大きく傷つけられてしまっているのだ。

「政府とKC医師側交渉団は話し合いの席に着き、KC医師が同じ問題でまたハンストをしなくてもよいような解決策を見つけるべきだ。KC医師の体調は危険なほど悪化している。彼は、いかなる犠牲を払っても救われなければならない。一方、オリ首相の評判は、そのかたくなで非情な態度により悪化してしまった。オリ首相、手遅れになる前に、あなたのエゴを抑え、KC医師の言葉に耳を傾けられよ。」

▼**ダマカント・ジェイシ**「絶対的権力は絶対的に徹岸となる」(ニューヨーク・タイムズ, 2018年7月24日)(\*81)

「オリ[首相／共産党共同議長]やダハル[共産党共同議長]が自分自身の党のマンモハン病院を信用せず、バンコクやシンガポールに治療に行くのは、なぜか？ KCの改革要求は、ネパールの病院をオリやダハルの治療に十分なレベルにすることに他ならない。……ネパール共産党が、 कांग्रेस党によるKCの闘争の政治的利用を糾弾するのは、正しい。では、共産党自身のKCとの過去の合意を共産党に実行させなくしているものは、なにか？ कांग्रेस党にKCのハンストを武器として利用するチャンスを与えてくれるのか？」

\*79 Editorial, “That was appalling: The way the state used force to bring Dr KC to Kathmandu is deplorable,” Kathmandu Post, Jul 20, 2018

\*80 Editorial, “Give up rigidity, listen to Dr KC,” Republica, July 24, 2018

\*81 Damakant Jayshi, “Absolute power numbs absolutely: Nepal’s Communist government is behaving like a bunch of unhinged, insensitive hypocrites,” July 24, 2018

谷川昌幸(C)

2019/05/08 at 18:05

カテゴリ: [健康](#), [政治](#), [教育](#)

Tagged with [ゴビンダ・KC](#), [ハンスト](#), [医学教育](#)



## ゴビンダ医師のハンスト闘争(31)

### 7. ハンスト:開始から終了まで

- (1)ジュームラでハンスト開始
- (2)体調悪化
- (3)ゴビンダ医師支持の拡大
- (4)カトマンズへの強制移送
- (5)カトマンズでのハンスト継続

### (6)人権団体等の KC 支持声明

ゴビンダ医師のハンスト闘争については、ネパール内外の人権団体等が様々な KC 支持声明を発表、問題の早期解決を訴えた。

たとえば、アジア人権委員会(AHRC)は 7 月 11 日付声明「医学マフィアに一人立ち向かう KC 医師、健康状態悪化」において、こう要望した。「AHRC はゴビンダ・KC 医師の生命を救うため、政府が直ちに対応することを求める。政府は、ネパール一般市民の利益のために、すみやかにマテマ委員会答申に沿う医学教育法を制定し、KC 医師とのこれまでの合意を実行すべきである。」(\*74, 75)

また、アムネスティ・ネパールも、7 月 20 日付声明「病院玄関先での実力行使は認められない」において、KAHSでの警察実力行使に憂慮を表明し、問題の話し合いによる解決をネパール政府に対し要望した。(\*76)

さらに、7月22日には、ネパールの主要メディア編集長ら十数人が KC 医師と面会した後、共同で KC 支持声明を出した。それによれば、主要諸政党が KC とのこれまでの合意を誠実に実行しなかったため、彼は今回、15回目のハンストに入らざるをえなかった。「その結果、KC 医師はハンストの繰り返しで生命そのものの危機に陥ってしまった」。政府は、これ以上引き延ばすことなく、直ちに彼の要求に応えるべきだ。以上が声明要旨。この声明に参加ないし賛同したのは、カンティプル、カトマンズ・ポスト、ナガリク、リパブリカ、ヒマラヤン・タイムズ、アンナプルナ・ポスト、セトパティ、ナヤパトリカ、12khari.com など(同系列メディア含む)。(\*77,78)

Home / News / NEPAL: Deteriorating health of Dr. KC, lone crusader fighting against medical mafia

**NEPAL: Deteriorating health of Dr. KC, lone crusader fighting against medical mafia**

Statement (Dated: July 11, 2018)



The Asian Human Rights Commission (AHRC) is concerned at the deteriorating health of Dr. Govinda KC, who has been on an indefinite hunger strike in Jurela district since 30 June 2018. Dr. KC, a senior orthopedic surgeon, is making reforms in the country's medical education sector. In particular, he is demanding the enactment of a historical Medical Education Act, and other reforms based on the agreements reached between him and the government earlier.

Kathmandu, 20 July

Press Statement

Use of Force at the Hospital Premises Unacceptable



AMNESTY INTERNATIONAL NEPAL SECTION  
Amanda Marga, Boudha Marg  
P. O. Box 135, Boudha, Kathmandu, Nepal  
T: +977 1 4384700 or 4363431 Fax: +977 1 435201  
E: info@amnestynepal.org / www.amnestynepal.org

■AHRC 声明(同 HP より) / アムネスティ・ネパール声明(同 HP より)

\*74 AHRC, "NEPAL: Deteriorating health of Dr. KC, lone crusader fighting against medical mafia," AHRC HP, July 11, 2018

\*75 "AHRC urges govt to save Dr Govinda KC's life," Himalayan, July 12, 2018

\*76 Amnesty International Nepal Section, "Use of force at the Hospital Premises Unacceptable," 20 Jul 2018

\*77 "Editors of mainstream media express solidarity to Dr KC's demands, appeal govt to meet his demands," Republica, July 22, 2018

\*78 "Editors support Dr KC's demands, urge govt to act soon," Republica, July 23, 2018

谷川昌幸(C)

2019/05/07 at 10:20

カテゴリー: [健康](#), [政治](#), [教育](#)

Tagged with [ゴビンダ・KC](#), [ハンスト](#), [医学教育](#)

## ゴビンダ医師のハンスト闘争(30)

### 7. ハンスト:開始から終了まで

- (1)ジウムラでハンスト開始
- (2)体調悪化
- (3)ゴビンダ医師支持の拡大
- (4)カトマンズへの強制移送

### (5)カトマンズでのハンスト継続

ゴビンダ・KC 医師は2018年7月19日、軍ヘリによりジウムラからカトマンズへ強制移送され、午後4時には[トリブバン大学教育病院\(TUTH\)](#)に収容された。

ゴビンダ医師の体調は、20日以上にも及ぶハンストのため極度に悪化、生命すら危険な状態になっていた。7月20日にKCを見舞ったデウバ NC 党首は、こう述べている。「彼は危険な状態だ。何か言いたそうだったが、話すことはできなかった。……彼の背後には何百万人も支持者がいる。政府は直ちにKC との話し合いに応じ、彼の要求を聞き入れるべきだ。」(\*67)

7月22日には、KC の母(80歳)が彼と面会し、精密検査受診を訴えた。この母の懇願を受け、KC が検査を受けると、冠疾集中治療室(CCU)での治療が必要なほど危険な状態であった。(\*68)

7月25日付報道では、TUTH 医師が、KC は危険な状態にあると警告した。白血球数、血糖値、カリウム値が、いずれも基準から著しく外れ、記憶喪失もある。このままでは、痙攣(seizure)を引き起こし、意識喪失(coma)になるという。

まさに極限状態。この文字通りの「決死のハンスト」は人々の関心をさらに高め、メディアが連日、大きく報道し、KC 支持の集会やデモ、医療機関のストなどが拡大していった。

7月21日には、[マイティガル](#)で KC 支持大集会が開催された。参加したのは、ガンガ・タパ元保健大臣ら NC 幹部数名、「新しい力」党のバブラム・バタライとヒシラ・ヤミ、ビベカシール・サージャ党幹部、スシル・カルキ元最高裁長官、人権活動家のクリシュナ・パダディ、女優のクリシュナ・マナダールといった有力者・著名人をはじめとする多数の人々(参加者数詳細不明)。

マイティガル集会後、ニューバネスワルに向け、「マフィアのお友だち政府はいらない」などと書かれたプラカードを掲げ、風船を手にした「風船デモ」が行われた。このデモ隊は、ニューバネスワルで警官隊と衝突、デモ隊側数十人と警官11人が負傷した。この知らせを聞き、デウバ NC 党首はオリ首相に会い、警官隊の実力行使を非難し、KC の要求に応えなければ、闘争をさらに強化すると警告した。(\*69, 70, 71)

翌22日には、「ゴビンダ・KC 医師連帯同盟」主催の KC 支持集会が大ターバー広場で開かれ、医師、看護師、医学生ら約300名が参加した。さらに23日には、国民民主党、ビベカシール・サージャ党、ネパール医学協会を中心とする KC 支持集会が開かれ、数百人が参加した。こうした KC 支持集会やデモは、ポカラなどでも実施され、全国へと拡大していった。(\*72, 73)



■風船デモ(Republica, 22 Jul 2018)

- \*67 Bishnu Prasad Aryal, "180 days, 6 years, 15 hunger strikes," Republica, July 18, 2018
- \*68 "Dr KC agrees to checkup at mother's request," Republica, July 24, 2018
- \*69 "For Dr. Govinda KC, Against Govt's Decision," Republica, July 21, 2018
- \*70 "Dozens including 11 police injured in protests over Dr KC's demands," Republica, July 22, 2018
- \*71 "Civil society takes to the street over Dr KC's demands," Republica, July 22, 2018
- \*72 "Civil society starts mass sit-in supporting Dr KC's demands," Republica, July 23, 2018
- \*73 "Civil society's mass sit-in continues Monday," Republica, July 24, 2018

谷川昌幸(C)

2019/05/06 at 09:41

カテゴリー: [健康](#), [政治](#), [教育](#), [民主主義](#), [人権](#)

Tagged with [ゴビンダ・KC](#), [ハリスト](#), [医学教育](#)